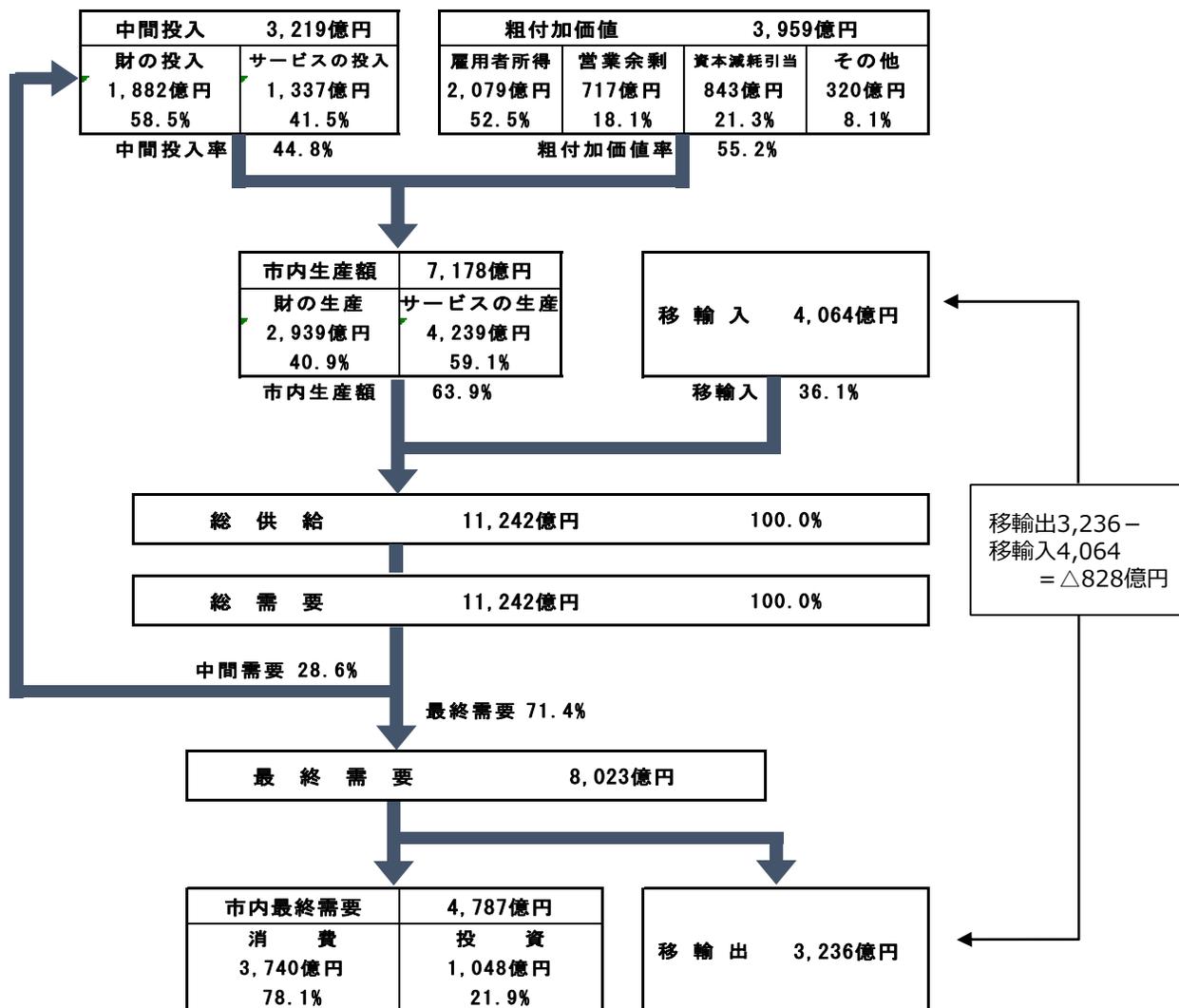


令和2年度小樽市観光基礎調査（概要）

【市内生産額】

- ・供給側から見ると、平成27年の1年間に市内の全産業が生産した財・サービスの総額である市内生産額は、7,178億円となっている。
- ・この生産を行うために必要な原材料・燃料等の購入費用である中間投入は3,219億円であり、生産のために投入された労働の対価や企業の利潤などの粗付加価値は3,959億円となっている。この市内生産額に市外からの供給である移輸入4,064億円を加えた総供給は1兆1,242億円となっている。
- ・需要側から見ると、総需要は総供給と同額で、生産を行うための原材料・燃料等の財・サービスとして各産業部門間で取引された中間需要は、中間投入と等しい3,219億円となり、最終需要は8,023億円となっている。そのうち、家計消費や企業の設備投資などの市内最終需要は4,787億円、市外からの需要である移輸出は3,236億円となっている。
- ・なお、移輸出から移輸入を差し引いた域際収支は828億円の移輸入超過となっている。

「平成27年小樽市産業連関表」から見た財・サービスの流れ



注1) ここでいう「財」とは、農林水産業、鉱業、製造業、建設業及び電力・ガス・水道業とそれ以外の産業部門を「サービス」とした。
 注2) 四捨五入の関係で、内訳と合計が一致しない場合がある。
 注3) ここでいう「消費」とは、家計外消費支出、民間消費支出及び一般政府消費支出であり「投資」は総固定資本形成（公的）、総固定資本形成（民間）、在庫純増である。

令和2年度小樽市観光基礎調査（概要）

【年間観光消費額】

- ・小樽市観光客動態調査報告書（令和2年3月）において、平成30年度の年間観光入込客数7,674千人で、年間観光消費額は898億円と推計。
- ・これは、平成27年度小樽市産業連関表における市内生産額7,178億円に対して12.5%の割合を占める。

【観光経済波及効果の推計】

- ・年間観光消費額（898億円）のうち、市内産業に直接的に波及する「直接効果」は642億円と推計。
- ・この直接効果は、市内において157億円の「原材料波及効果」（1次効果）と、雇用者所得を通じた95億円の「家計迂回効果」（2次効果）を生み出す。
- ・直接効果と生産波及効果の比率で示される「生産誘発倍率」（生産波及の大きさを示す係数）は1.4となった。
- ・各産業部門が生み出した「付加価値効果」は477億円と推計。
- ・観光消費により市内で生じる直接効果、原材料波及効果（1次効果）、家計迂回効果（2次効果）を合計した「生産波及効果」は893億円と推計。
- ・これは、平成27年度小樽市産業連関表における市内生産額7,178億円に対して12.4%の割合を占める。
- ・推計された観光経済波及効果に対応する雇用効果（雇用者誘発数）は13,441人と推計され、市内の事業所従業者総数（H26経済センサス）56,650人の23.7%に相当する。

【観光消費による経済波及フロー】

